

今号の乙貞では、今月に調査を完了した下之郷遺跡の確認調査と、東辻戸遺跡の調査について、最新の調査成果を紹介します。

また、去る9月17日(土)に催された「歴史フォーラム 伊勢遺跡の謎を読み解く—邪馬台国前夜の大型建物群—」の様様と、夏休み中に埋文センターで実施した「親子考古学教室」の様子を併せて紹介したいと思います。

## ● 発掘調査成果 ●

### (1) しものごう 下之郷遺跡 確認調査

平成23年6月から開始した下之郷遺跡の確認調査は7月29日に終了しました。今回は、調査の完了した第2・3調査区の成果について報告したいと思います。

まず第2調査区では、飛鳥～平安時代の落ち込み状の遺構を確認しましたが、弥生時代の遺構・遺物はほとんど見られませんでした。第3調査区では、当初の想定どおり、弥生時代中期後半の3重の環濠の続きを確認することができ、また環濠の内側では多くの土坑・ピットを検出しました。

今回の確認調査では、第1・3調査区で環濠の一部を確認することができ、第2調



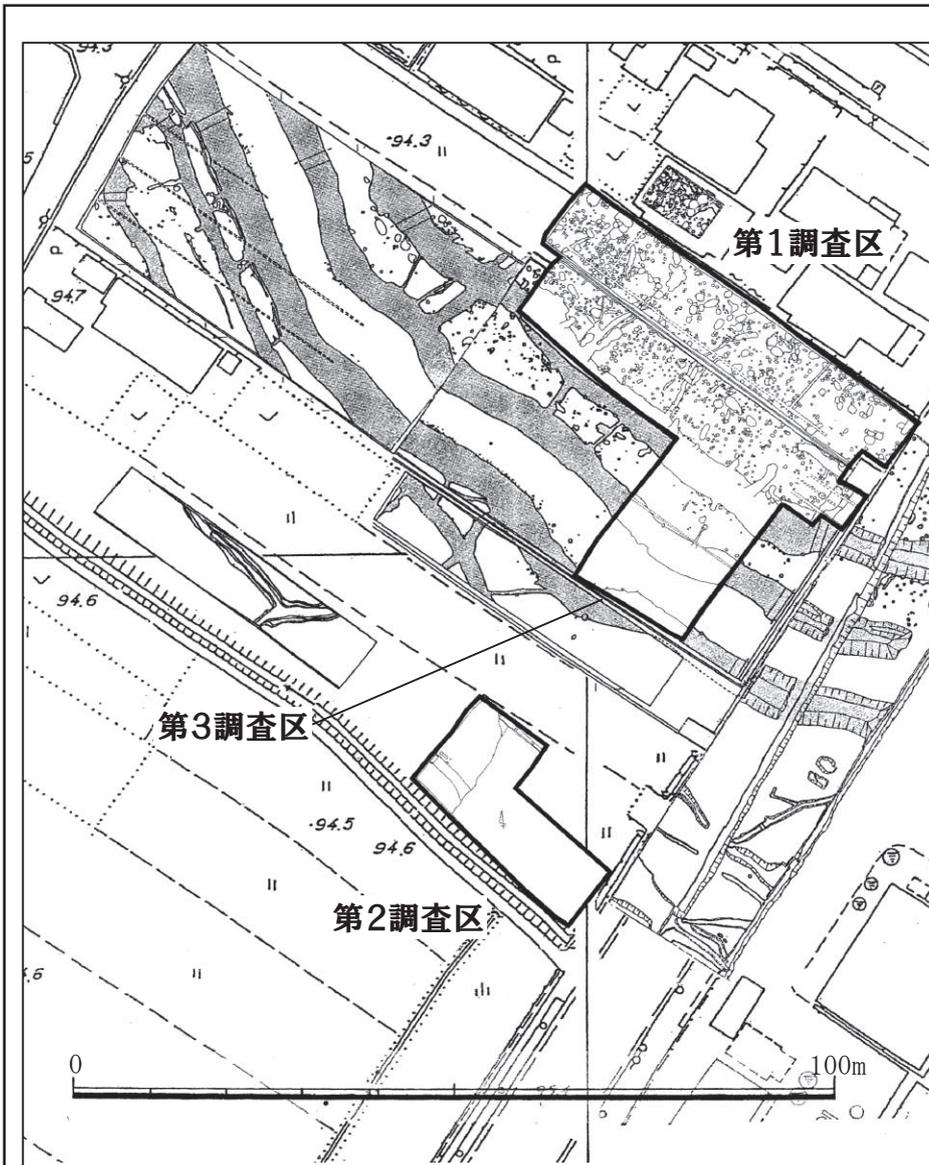
下之郷遺跡 第2調査区

査区では環濠集落の時代である弥生時代中期の遺構がほとんど見られませんでした。つまり、環濠集落が営まれた時期には、環濠のすぐ外側ではあまり土地利用がされていなかったことを示すものと思われます。

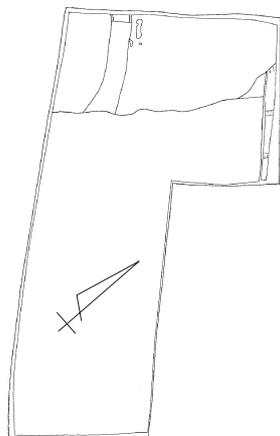
(平井)



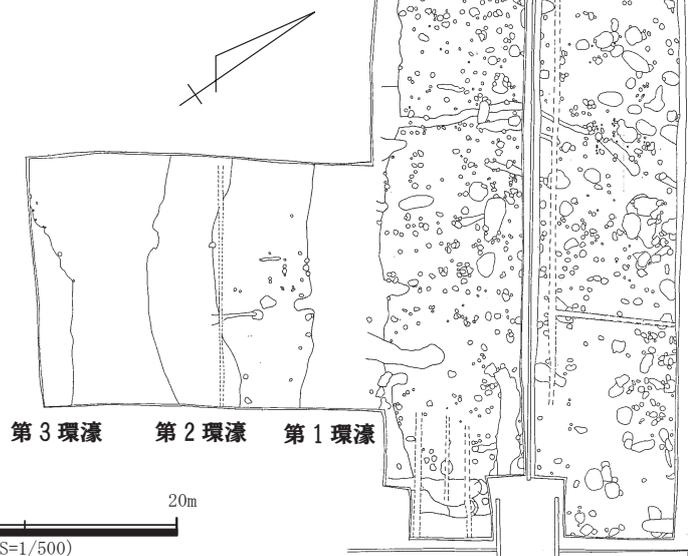
下之郷遺跡 第3調査区



下之郷遺跡 調査対象地 周辺遺構図



第2調査区 遺構図 (S=1/500)



第1・3調査区 遺構図 (S=1/500)

(右：第1調査区、左：第3調査区)

**(2) 東辻戸遺跡 第1次調査**

平成23年6月から今宿二丁目字東辻戸地先において実施していた調査は、9月9日をもって完了しました。

調査の結果、当遺跡は弥生～鎌倉時代の複数の時代にわたる遺跡であることが確認できました。最も古い遺構はSX-2で、弥生時代後期の方形周溝墓<sup>ほうけいしゅうこうぼ</sup>と考えられます。SX-4は、弥生土器の碎片が出土しており、全容はSX-2と同じく方形を呈する溝と想定されることから、同時期の方形周溝墓と考えられます。SX-3は、遺物の出土が少なく、詳細な時期はわかりませんが、方形周溝墓の“陸橋”<sup>りつきょう</sup>部分が突出したもので、“前方後方型周溝墓”<sup>ぜんぽうこうほうがたしゅうこうぼ</sup>へと移り変わっていく過渡期の周溝墓であると考えられます。SX-1は、多数の高坏に加え、須恵器片が出土しており、方形を呈することから、古墳時代の“方墳”<sup>ほうふん</sup>の可能性がります。以上のことから、弥生・古墳時代において当遺跡は墓域であったと考えられるでしょう。

次に、それ以降の時代を見てみると、調査区を横断する溝S51は、8～9世紀のもので、多数の土器に加え、“鉄滓”<sup>てっさい</sup>が出土しています。鉄滓は、鉄を作る際に出てくる不純物の塊のことをいい、この出土は近隣でまさに製鉄が行われていたことを示すものです。残念ながら、今回の調査地では“製鉄炉”などの製鉄関連の遺構は見つかりませんでした。近辺に所在する可能性は高いと考えられるでしょう。井戸S132は、4～5段に石を積み上げて構築されていました。13世紀代のもので、この時期になると当遺跡は集落として人の住まう地であったことを示しています。

調査地周辺では、これまで調査事例があまりなかったのですが、今回の調査を契機に少しずつ周辺地域の歴史的背景が見えてくることに期待したいと思います。(木下)



右：SX-1、左：SX-3



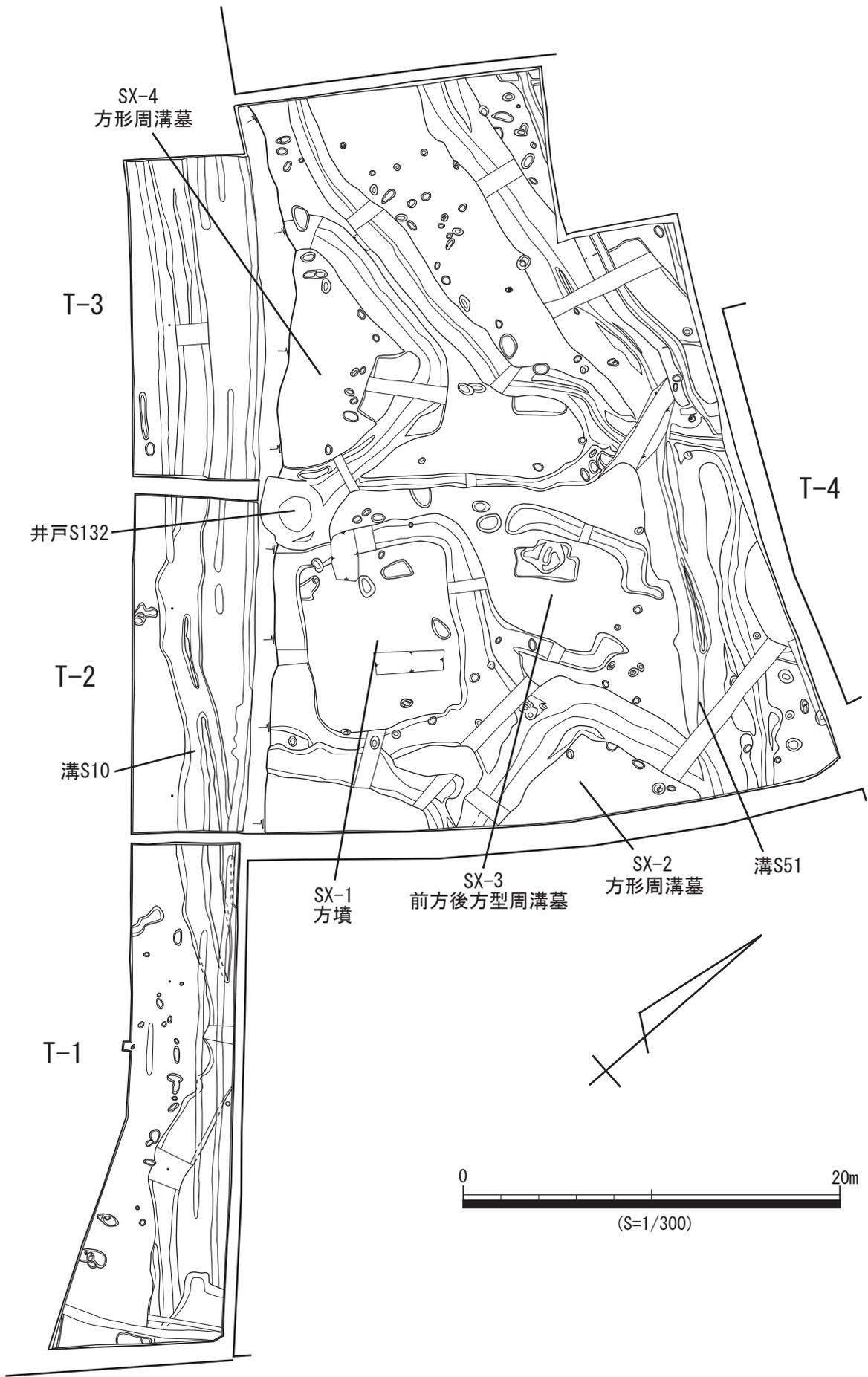
溝 S51 須恵器壺・鉄滓出土状況



溝 S51 東から



井戸 S132



東辻戸遺跡 全体図 (S=1/300)



T-4 全景 南西から

## ● 歴史フォーラムが開催!! 「伊勢遺跡の謎を読み解く—邪馬台国前夜の大型建物群—」 ●

去る9月17日（土）に、立命館守山メディアホールで、歴史フォーラムが開催されました。当日は市内外から、200名以上の参加者があり、いよいよ国史跡指定に向けて動き出す“伊勢遺跡”についての講演に、多くの方が耳を傾けました。フォーラムは、日本建築史の権威である宮本長二郎先生、アジア全般を対象に研究を進めてこられた高谷好一先生によるご講演にはじまり、伊勢遺跡の大型建物の特殊性についてそれぞれの専門分野からの視点で解説をし



日本建築史の権威 宮本長二郎先生



講演に聞き入る参加者のみなさん

ていただきました。さらにシンポジウムでは、伊勢神宮の式年遷宮における実質上の責任者である宇津野金彦先生、近江の古代史における一線級の研究者である大橋信弥先生という豪華なメンバーにも加わっていただき、活発に議論を交わしていただきました。また、守山商工会議所の今村浩之さんからは、伊勢遺跡に対する熱い思いを語っていただき、大盛況の中、フォーラムを閉幕することができました。国史跡指定に向けて動き始めた伊勢遺跡に、これからもぜひ注目して下さい。

## ● 埋文センター 夏の親子考古学教室 ●

8月7日（日）、21日（日）に、埋文センターで、親子考古学教室を実施しました。第1回目は、“弥生土器”を作ろうというテーマで、粘土を使って2000年以上前の土器と同じ形のものを作る企画を行いました。参加した子供達も保護者の方々も、土器を作るのは初めての方ばかりだったので、と



ても苦戦しながら弥生土器づくりに挑戦していました。親子が協力して楽しく、共同作業をする様子は、非常に微笑ましい光景で、完成した土器は、我々が思っていた以上にすばらしい出来栄えのものが多かったのが印象に残ります。第2回目には、“火起こしと古代食体験”を行いました。自分

達で起こした火でお米を炊くという、昔の方法で食事を作る体験に、参加者は大汗をかきながら必死で“火きり臼”を回していました。かつての生活が、いかに大変だったかを身をもって体験してもらえたと思います。作成した土器は、後日職員が焼成を加えて完成させ、参加者の皆様へお渡ししました。



## ● 埋文センター 秋の特別展のご案内 ●

平成23年10月29日（土）～11月23日（水・祝）にかけて、埋文センター秋の特別展を開催します。今年の秋のテーマは「野洲川流域の縄文遺跡」です。市内では、縄文時代早期末（約6,400年前）の赤野井湾遺跡あかのいわんが最も古い時期の遺跡で、その後、縄文時代中期・後期になると、経田遺跡きょうでん跡や下長遺跡しもながなど各所でこの時代の遺跡が見られるようになります。今年の秋は、ぜひ埋文センターへ来館していただいて、市内最古級の遺物の数々をご堪能ください。



機関紙「乙貞」は守山市のホームページ (<http://www.city.moriyama.lg.jp>) から閲覧できます。